

奥羽大学報



ふれあいの像

目次

奥羽大学歯学会の開催／2022年度第3回歯学部FD教員研修会の開催／ 大学院研究経過発表会の開催／大学院特別研修セミナーの開催	2
2022年度「業界をかえろ。薬局DX(デジタル・トランス フォーメーション)アイデアコンテスト」上位入賞	3
薬学部「英語圏言語文化研修」／SD研修会の開催／研究倫理に関する 大学院特別研修セミナーの開催／科研費申請書のブラッシュアップ	4
自著を語る／附属病院	5
ちょっと寄り道／『奥羽大学報』PDF化について	6
歯学部紹介	7
キャンパスの風景	8
薬学部紹介	9
同窓会だより／同窓生のひろば	10
学報編集の10年間	11
人事	12
奥羽大学 2023年度 一般選抜 入学試験日程	13
特待生制度	14

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

奥羽大学歯学会の開催

第71回奥羽大学歯学会が、6月18日(土)に開催された。新型コロナウイルス感染症の現状に配慮して、Zoomによるオンラインでの開催となった。学内学会の特徴を反映して、広範な分野から学位口演2演題を含めた6演題の発表があり、それぞれの演題について活発な質疑応答が展開された。

当日は、若手教員の研究奨励のための学会賞と発表賞の表彰も行われ、学会賞は口腔病態解析制御学講座の眞島いづみ講師が、発表賞は口腔外科学講座の高良宗斉助教と歯科補綴学講座の内山梨夏講師が受賞した。

2022年度第3回歯学部FD教員研修会の開催

歯科医師国家試験は多岐選択式問題で行われ、マークシートにより採点される。歯学部の授業や試験でもマークシートは多用され、1台のみの読み取り機は酷使され、事務処理が追い付かない事もあった。そこで、各教員がいつでもマークシートによる試験を採点、分析し、速やかに学生にフィードバックできるよう、採点システムを一新することとなった。今回、この新システムの活用方法を理解し、教育効率を向上させるためにFD教員研修を実施した。

大学院研究経過発表会の開催

2022年度の大学院研究経過発表会が、8月31日(水)13:00から15:20まで開催された。新型コロナウイルス感染症対策として、Zoomを用いたオンラインでの開催であった。来年度に学位申請を行う予定の11名の大学院生が、今までの研究成果及び今後の研究の展開について発表を行った。それに対して大学院教員から多くの助言が与えられ、学位論文の質的向上に貢献する有意義な発表会となった。

大学院特別研修セミナーの開催

2022年度第3回目の大学院特別研修セミナーが、9月2日(金)17:15から18:15までZoomを用いたオンライン形式で開催された。講師は、国家公務員共済組合連合会虎の門病院の院長をされている門脇孝先生にお引き受けいただいた。門脇先生は長年、東京大学大学院医学系研究科の教授として、糖尿病に関する研究で世界をリードしてこられ、今回はご自身の研究のみならず、どのようにして優れた医学研究者として大成されたのかをお話いただくことができた。本学の大学院生・教員一同にとって、研究意欲を非常に高める機会となった。当日は、大学院生と歯学部及び薬学部教員の計104名が参加した。

2022年度「業界をかえろ。薬局DX(デジタル・トランスフォーメーション)アイデアコンテスト」上位入賞

薬学部医療薬学分野の佐藤 翼さん(5年)、三野 陽子さん(4年)、岩下 姫夏さん(4年)が、2022年8月20日(土)開催の「業界をかえろ。薬局DXアイデアコンテスト(主催:(一社)地域ヘルスケアDXコンソーシアム 後援:会津若松市・(一社)福島県薬剤師会・福島民報社、他)」にて、上位入賞を果たしました。

薬学、看護学、栄養科学、デザインおよびITなど、多様性を持ったメンバーが1つのチームを構成し、デジタルを活用するDXが進展する現代の経済社会において、DX戦略が遅れつつある地域薬局を活性化するためのアイデアを他チームと競い、優れたアイデアを提案したチームに対して賞が与えられました。第1位を獲得したAチームには三野陽子さんが、第2位入賞のCチームには岩下姫夏さんが、そして第3位入賞のBチームには佐藤翼さんが所属しており、本学学生の活躍がうかがえます。今後は、入賞したアイデアを基にデジタル技術サービスを実装した薬局づくりを目指していきます。



第1位(Aチーム): 左から3番目が三野 陽子さん



第2位(Cチーム): 右から2番目が岩下 姫夏さん



第3位(Bチーム): web 参加のため
中央パソコン内が佐藤 翼さん

薬学部「英語圏言語文化研修」

8月31日(水)～9月2日(金)までの3日間、薬学部英語圏言語文化研修に2、3年生4名が参加した。この研修は一般教養科目のひとつで、福島県岩瀬郡天栄村のブリティッシュヒルズに滞在して英会話を中心としたプログラムを受講するものである。新型コロナウイルス感染症の流行に伴って昨年度は中止となったが、今年度は十分な感染対策の下で実施に漕ぎ着けた。参加者は研修を通じて英語力を高め、英国文化への理解を深めることができた。



SD研修会の開催

2022年度のSD研修会が、9月28日(水)17:10から17:40までZoomを用いたオンライン形式で開催された。講師は本学歯学部の板橋 仁准教授で、「新型コロナウイルスの感染対策と感染時の対応」と題したセミナーであった。本学の新型コロナウイルス感染拡大阻止に関する今までの取組みと現在の対応方針について、詳しい説明が行なわれた。今後も引き続き感染対策を行う必要性が認識でき、教職員にとって非常に有意義なSD研修会となった。

研究倫理に関する大学院特別研修セミナーの開催

研究倫理に関する大学院特別研修セミナーが、9月30日(金)17:15から18:15までZoomを用いたオンライン形式で開催された。「研究倫理の基本的な考え方」と題し、東北大学大学院文学研究科社会学専攻分野の田代志門先生にご講演をいただいた。

田代先生は、今まで国立大学医学部、私立大学医学部、さらには国立がんセンターで研究倫理に関わる実務にも従事されて来られた。そのため、本セミナーでは、研究倫理の中でも特に臨床研究に関わる倫理的な諸問題について、ご自身の経験に基づいた詳しい説明があり、大変有意義な研修となった。当日は、歯学部及び薬学部教員と大学院生の計137名が参加した。

科研費申請書のブラッシュアップ

日本学術振興会が行っている科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)は「科研費」と略され、全国の大学教員の研究活動にとって非常に重要な研究資金となっている。本学では、毎年度科研費の採択率を向上させるための外部講師によるセミナーを開催しているほか、歯学部では主に若手教員を対象とした科研費申請書のブラッシュアップを行っている。今年も科研費採択経験のある歯学部教員を中心とした科研費採択促進委員会によって、10名の歯学部教員の申請書がブラッシュアップを受けた。

自著を語る

『かなり緩やかな愛の前進』

ジャン・ポーラン著 榎原直文訳 水声社 2022

本書に訳出した短篇小说5篇の著者ジャン・ポーランは、20世紀フランスを代表する月刊文芸誌『新フランス評論』の編集長を長らく務め、幾多の作家を世に出したフランス文壇の大御所的存在である。

しかし、その短篇小说は、全集がフランスを代表する出版社ガリマール社から現在刊行中であるとはいえ、とくに日本ではほとんど知られていない。事実、今回お世話になった株式会社水声社の社長も、その編集部員も、某有名大学の仏文卒業生であったが、わたしの原稿で初めてその存在に触れたのであった。

さて、本書は、決して読み易くはない。フランス本国においてもその難解さはよく知られるところである。しかし、妙な言い方かもしれないが、そこにはわたしのすべてがあるように思われない。それほどわたしはそれらに親しんできた。それを生きてきたのである。

ところで、そんなわたしには、改めて心に懸かってやまないことがある。本学の学長就任予定5日前に急逝した佐藤房吉先生のことである。わたしは先生に大学1年のときフランス語を初めて習ったのであったが、平成元年3月、亡くなる2週間位前であったろうか、久しぶりにお会いした席で、なんと「先生、休講が多かったですね」と口走ってしまったのである。わたしは、それほど先生の授業が楽しみで仕方がなかったのです、と言いたかったのである。ところが先生は、「そうだったかなあ」と真剣にお悩みになられた。たぶん、続けて2回ほど講義がなかっただけであつたらうに(先生が研究されていたフランス語接続法の大家がそのときちょうど来日されていたことを知ったのは、後になってからのことである)。

本学でも、現在、先生方の授業をそれぞれに楽しみにしている学生がいるに違いない。

(元本学文学部フランス語フランス文学科教授 榎原直文)



附属病院

休日・夜間時の自衛消防訓練

9月7日(水)附属病院において、歯科医師、看護師、事務職員など30名が参加し、休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。地震および火災発生時の通報連絡の手順、4人体制による担架搬送訓練を実施した。2021年2月や2022年3月の地震は夜間に発生しているが、入院患者は1人のけがもなく避難誘導され、年1回ではあるがこの訓練が生かされていると思われる。



休日・夜間時の自衛消防訓練

ちょっと寄り道! 「樋口一葉の図書館通い」

樋口一葉(明治5～明治29)は、『たけくらべ』『にごりえ』などで知られた日本を代表する明治の女流作家。肺結核のため25歳で早世。彼女は帝国図書館の前身である東京図書館へ度々通い、ここで多くのことを学んだ。残された「日記」から図書館利用の姿を垣間見てみよう。

明治24年某月某日 それより直に図書館に趣く 本朝文粹及雨夜のとし火五
雑俎とをかる 馬琴の著書中に五雑俎といふこといと多く有しかは見まほしくてなり
左はあれとも例の不学故中々にえよむへくもあらず いとせんなし 三時頃館を出て
みの子君のもとにゆく

明治24年某月某日 おのれは図書館に書物見に行 また開館に至らさりしかは
やがて開館を待て入る 太平記今昔物語及ひ東鑑を貸る 但し東鑑はよまて太平記并
に今昔物語をのみ借かへてみる 館を出しは日のやゝ西にかたふさし頃成き

明治25年1月13日 晴天 図書館へ行く 九時頃より家をは出つ 太平記大和
物語をかりる 但し大和ものかたりはみすして太平記のみ閲覧す

明治25年3月22日 目録書の台の上にしきりになにかしたゝめ居る給ふは思ひ
しことみの子ぬし也 走り寄りて声ひくに挨拶す 相携へて楼上婦人席に入る 先に
一人の閲覧人あり 医学の生徒ならん外科といふ書籍を見居たりき

明治25年4月20日 晴天 図書館へ書物見にゆく 太田南畝藤井懶斎か随筆と
も見る 明治女学校の生徒及び駒場農学校何某氏の妻刀剣類写真の模写に來られしに
逢ふ 帰路広小路まで同伴す

明治26年3月2日 図書館に書物見に行 産婆生にて稲垣しけと呼ぶ婦人にあ
ふ 我隣家なる加藤なみ子か友なるよし 奇談あり 御伽婢子十冊計よみて帰る

明治26年11月6日 図書館にゆく 本日より十二日まで虫ぼしの為閉館のよし
やむを得すかへる

(『明治文学全集30 樋口一葉集』筑摩書房より)(A)

『奥羽大学報』PDF化について

本学では、環境の保護に貢献するため、次号から印刷体での配布を取りやめ、
ホームページ上で閲覧していただくようになりました。



歯学部紹介

一般教養



(向かって左から) 本多真史、荒木威、長峯英樹、佐藤歩、今井元、阿部匡聡、菊地尚志、斎藤昇太郎

コロナウィルス感染症の収束が見通せない中、皆様いかがお過ごしでしょうか。生活にもお仕事にもご不便な日々をお送りのことと存じます。

本学歯学部一般教養分野は、化学、物理学、生物学、心理学、日本語学、英語学の6つで構成されています。この分野のスタッフは、それぞれ化学分野：阿部匡聡（講師）、斎藤昇太郎（講師）、物理学分野：菊地尚志（教授）、荒木威（講師）、生物学分野：今井元（准教授）、心理学分野：佐藤歩（講師）、日本語学分野：本多真史（講師）、英語学分野：長峯英樹（講師）になります。各分野の講義内容等を以下に記します。

【化学分野】

化学分野では、物質の構造、状態、性質、変化を原子・分子のレベルで理解していきます。このため、物質の成り立ちにおける根本原理・法則を習得し、物質量、濃度、エネルギーの扱いを学び、化学式、構造式、反応式を用いて物質の構造とその変化を学びます。また、基本的な有機化合物、生体関連化合物の構造と反応を習得し、物質代謝の過程、歯科関連薬物・材料の分子機構的理解に役立たせます。

【物理学分野】

「基礎物理学」では歯学部学生にとって物理学が日常的に感じられるように授業を進めています。単に一般教養を身に付けてもらうだけでなく、歯科医師を目指す学生にとって有用な題材をできるだけ多く取りあげ授業を進めています。例えば、身体の動作の力学的な理解、熱による材料の変形、X線や放射線の基礎などを取り扱っています。また授業の半分を演習にあて、暗記だけに頼らず、論理的な思考に基づき問題解決を図る習慣を養っています。

「物理学」では1年生の「基礎物理学」を基に、歯科医学で物理学が応用されていることがらについて歯科の専門的な知識と関係つけながら授業を進めます。具体的には歯科材料学と歯科放射線学への応用事項について発展させます。

【生物学分野】

基礎生物学・生物学実験では、生命体（人体）の基本となる「個体の階層性（細胞→組織→器官→器官系→個体）」、および「その構造と機能・発生過程・進化過程」などを歯学教育で行う解剖・生理学的体系に沿って学修させています。2年次以降に修得すべき「学修項目」を十分に理解し、歯科医師としての「高度な医学知識や専門技術」

を修得し易くすることを目標としています。

【心理学分野】

本講義では、人の心理的側面を理解し、それに対処していく知識と技術を身に付けることを目的としています。そのために心理学の基本的な立場はもちろんのこと、虐待や発達障害、依存症といった現代における心の問題や災害時における心のケア等について講義しています。また、心理テストを通して、自己理解を促し多忙な歯科医療現場の中で生き抜く力（自分自身をメンテナンスできる力）を身に付けられるよう講義しています。

【日本語学分野】

日本語学分野では、歯学の学びに欠かせない、あるいは生きていく上で欠かせない「読む、聞く、話す、書く、考える」の基本姿勢、知識、他者とのコミュニケーションが円滑にいくような能力・技能の向上など、様々な角度から「日本語学運用の基礎」をしっかりと固められるような講義を行っています。加えて、国家試験を解くのに必要な「読解力」の育成にも力を入れており、「問題文を読み、理解し、その後、思考して問題を解く」

という一連の行為がスムーズにいくような能力を体得させています。

【英語学分野】

高度な専門知識と技術を備えるためには膨大な専門書や論文を読むことが不可欠であり、最先端の研究成果のほとんどは英語です。そのため、英文読解の基礎を学ぶことが当分野の目的となります。1年次の「英語基礎・英語Ⅰ」では幅広い分野の英文を読むことで基礎を学び、2年次の「英語Ⅱ」では歯科英語学分野の語彙力を強化します。高度な専門性と豊かな人間性、そして英語力を備えた歯科医師として活躍できる資質育成に貢献していきたいと考えています。

「教養は知識の運用力」とも言われます。本や新聞、大学の授業などから得たものを自分の言葉にして伝えたり、知識と知識を結びつけて何らかの論理を作ったりと、自由自在に駆使できるようになることこそが大切であり、本学の建学理念「人間性豊かな人材」に通じるものがあります。学部の命題にもなっている国家試験合格率の向上を視野に入れつつ、社会人として相応しい人間形成にも取り組んでいきたいと思っています。

キャンパスの 風景

ふれあいの像

山田良定作(設置場所:中央棟付近)

表紙の写真をご覧ください。

母と子が緑の芝生のベンチで触れ合っています。微笑ましい風景ですね。

女の子は人形を抱いたまま、母に何かを語りかけているようです。母は娘の方に視線をやりながら頷いています。手には布で包んだお弁当箱を持っています。おやつでしょうか、おにぎりかもしれません。そんな想像をしてみるのも楽しいではありませんか。

季節はいつでしょうか。時間は多分午後でしょう。おだやかな時間が流れています。

親子像の前方には滝があります。周りの風景に溶け込んでいるような流れです。滝の周辺には春はさくら、ニセアカシアの白い花房、気品を漂わせるモクレン。初夏は豪華なアジサイ軍団、池には時々カモがやってきます。カッコウ、ウグイス、ホトトギスが鳴くこともあります。

秋には落ち葉がからからと音をたてて舞ってきます。時には正門近くのカシワの木のドングリが転がってくることもあります。

冬、雪が女の子の肩の高さまで積ることがあります。一面の白銀世界。滝の両端が凍るとできる氷瀑が、幻想世界を作ります。

春を呼ぶ淡い光でだんだんと雪が溶け、やがて、待ち焦がれていた春がやってきます。緑の芝生がこの親子像を包みます。心が癒される時です。

四季折々の風景のなかで、親子像はいつもこの場所で語り合っています。



(A)

ふれあいの像



薬学部紹介

化学分野



(向かって左から) 村田 清志、石山 玄明、竹元 万壽美、西村 良夫、金原 淳

薬学部の化学分野は、長年、本学の化学系の教育・研究にご尽力されました伊藤徳家教授、中楯奨講師、大樂武範助教が2022年3月にご退職になりました。2022年4月からは教授2名(竹元万壽美、石山玄明)、准教授2名(村田清志、西村良夫)、講師1名(金原淳)の新体制で構成されています。授業は、1年生の化学Ⅰ、化学Ⅱ、有機化学Ⅰ、基礎分析化学、2年生の有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、有機化学演習、機器分析学、薬用植物学、生薬学、3年生の有機化学Ⅳ、医薬品化学Ⅰ、サプリメント概論、4年生の医薬品化学Ⅱ、漢方医学を担当しています。学生実習では、1年生の薬学基礎実習(化学)、2年生の化学系実習を担当しています。また、竹元と石山は教科書や参考書の執筆も担当し、薬学教育に貢献しています。特に、石山は天然物化学の教科書の日本薬局方収載医薬品の項目を担当し、日本薬局方が改訂されるたびに医薬品をまとめています。

研究では、「紅茶主成分のテアフラビンの大量生産法の開発と機能性研究」(竹元)、「海洋生物由来の有用な天然有機化学物の探索とその応用」(石山)、「天然資源から健康に寄与する素材

の開発」(村田)、「互変異性ピリミジン系複素環化合物の効率的合成法、機能開発と生物活性」(西村)、「遷移金属触媒を用いた多重結合を有する化合物に対する反応の開発」(金原)などを主な研究テーマとして論文発表、学会発表などをこれまでに行ってきました。特に、竹元は紅茶成分テアフラビンで10件の特許化し、横山食品(株)よりテアフラビン関連商品を上市、石山と金原は、物理系の鈴木教授と共同で、昨年度奥羽大学学長裁量経費を獲得、村田は柑橘系成分ノビレチン関連商品をジャパンローヤルゼリー(株)より上市、蜂産品に関して5件特許化し関連商品を上市、歯学部眞島先生との今年度の奥羽大学学長裁量経費分担研究、郡山市との協定によるウラルカンゾウの特産地化の推進、西村は日本薬学会中国四国支部奨励賞受賞(2019年度)や(公財)日本化学研究会化学研究連絡助成金を獲得(2022年8月～2023年7月)、金原は2010年第49回日本薬学会東北支部大会若手研究者発表賞を受賞しました。

社会貢献では石山、村田は郡山市あさかの学園大学の講師として、村田はふくしま地域産業6次化イノベーターとして尽力しております。

同窓会だより

加藤 哲 岐阜県支部長（歯学部12期生）

同窓生の皆さま、この原稿執筆中の直近では安倍晋三元首相銃撃事件、東北地方等の記録的大雨、そしてコロナ第7波と目まぐるしい毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、岐阜県支部がある「岐阜」の地名は、稲葉山に居城を移した織田信長が、尾張の政秀寺の禅僧である沢彦宗恩（たくげんそうおん）が進言した「岐山・岐陽・岐阜」の3つのうちから選んだものといわれています。天下統一を目指す信長は「岐阜」の名称を選んで、稲葉山城下付近の「井口（いのくち）」を「岐阜」に改めたといえます。なお、「岐阜」という地名は、信長が名づける以前から禅僧の間で使われていたとも言われ、その由来には諸説あります。岐阜県北部の飛騨地域は、御嶽山、乗鞍岳、奥穂高岳など、標高3,000メートルを超える山々が連なっています。一方、南部の美濃地域は濃尾平野に木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）が流れ、特に長良川中流域は「日本の名水百選」に選ばれるほど美しい清流です。このように、自然に恵まれている岐阜県は、古くから「飛騨の山、美濃の水」という意味で「飛山濃水」の地と呼ばれてきました（岐阜県HPより抜粋）との事です。歴史に疎い私は、JR岐阜駅の「黄金の信長像」、金華山・岐阜城くらいしか思い浮かびませんが、他には長良川の鵜飼、世界遺産の「白川郷」、小京都の「飛騨高山」、日本三名泉の「下呂温泉」など、まだまだ魅力に溢れる岐阜県です。コロナ禍終息後こちらへお越しの際には、是非とも岐阜県支部同窓生へお声かけ下さい。

末筆ではございますが、岐阜県在住同窓生の皆さまにおかれましては、同窓会からの弔慰連絡メールに対応すべく支部連絡網を構築中です。はがき・Faxでご案内を差し上げていますが、ご確認いただいておりますでしょうか。既にご対応いただいている場合は誠に恐縮ですが、まだの場合はご回答をいただけますと幸いです。

同窓生のひろば



松本 一文（歯学部28期生）
28期生の松本一文です。

実家は熊本県人吉市で祖父の代から歯科医院をしておりました。私は卒業後3年母校の歯周病科、保存修復科で学

び、アルバイト先では7期の権先生、12期の木幡先生にお世話になり、その後同期の植木君のお父様や12期の佐藤篤先生、13期の鮎沢隆先生にも大変お世話になりました。鮎沢先生のご逝去は沈痛の極みです。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。卒後7年で実家に戻り現在は父とともに診療しております。

2020年にはコロナで患者さんを減らし、不安に思っていたところに2020年7月豪雨で被災し、地下のレントゲン室、機械室などは完全水没、床上も1m浸水し、ユニット全てをはじめほとんどの機材を失いました。

同地で完全に医院を復旧させるには半年以上かかるという事なので、医院を移転することを決定し、現医院は早期の診療再開を目標に応急処置で復旧させることにしました。

診療再開まで2ヶ月を要し、日付の感覚がわからなくなるほどでしたが、多くの方々に助けられました。スタッフ、患者さん、同級生、親戚、取引業者、父の知り合いの先生方、そして奥羽大学の同窓生の方々です。

学生の時に九州県人会があり、幹事もやりましたが、在学生全部で50名以上いるのに声をかけても集まるのは10名ほど…。横や縦の繋がりもあり感じられませんでした。私は編入で入学し、同期とも広く交流がなかったので母校への愛着があまりありませんでした。（バスケットだけは熱心に打ち込み、卒業後も顔を出していましたが。）

しかし被災後、同期の4人が中心となり、SNSのグループを立ち上げ、支援金や物資を募ってくれました。同窓会、九州支部、バスケットOBからもお見舞いをいただきました。大変ありがとうございました。振り返れば同窓の先生にずっとご指導いただいていたし、母校の絆を強く感じました。僕も微力ながらお返ししていきたいと思えます。

昨年9月に移転先の医院も完成し、スタッフ雇用問題などがありますが、なんとか一息つけるようになりました。今後も母校や同窓生のより一層のご活躍を祈念いたします。



藤川 和明 (文学部4期生)

皆さまお元気にお過ごしでしょうか。コロナ禍が完全に収束していない中、大変な思いをしておられる方々におかれましては、この状況が早く

好転するようお祈り申し上げます。

さて、私は相変わらず元気に過ごしております。近年は、新たに山登りを始めました。その経験を通して、安達太良山が日本百名山の一つだということを初めて知りました。在学中はスキー部に在籍し、冬季は毎日のようにホームゲレンデがある安達太良山に通っていました。しかし、当時はそのことを知りませんでした。安達太良山について、さらに調べてみると、遊歩道沿いに滝を見ることが出来る上に、花の百名山でもあることもわかりました。春夏は花々、秋は紅葉が素晴らしいとのこと。学生時代、冬季以外は安達太良山に行きませんでしたので、いつかまた安達太良山を訪ねてみたいと思っています。

最後に、在学中は良き先生方、先輩方、仲間・後輩や友達に恵まれて大変素晴らしい大学生活を送ることができました。この場をお借りしまして、改めて皆様に感謝申し上げます。

学報編集の10年間

「奥羽大学報」の編集を担当してから、10年近い歳月が流れました。2022年10月発行予定の学報172号より編集担当者が私から伊藤頼位先生(薬学部)、本多真史先生(歯学部)に交代します。これを機に、過去10年間の学報記事から折々印象に残ったものを拾ってみたいと思います。

2013年4月、新学長に広島大学歯学部教授の赤川安正先生が就任され、この時の学報138号から学長の指示により、私が編集担当となりました。あらためて、学報の果たす役割とはなにか、考え

る機会となりました。

学報は行事予定新聞で読むところがない、という声は以前から聞いてはおりました。商業新聞ではありませんから、学内の情報を淡々と伝えることにつきますが、読みたくなるような新聞作りはないものかと考えていたところ、学長の「キャンパスの美しさはウリになる」という一言がヒントになりました。確かに本学は日本一美しいキャンパスの一つだと自負してもよいでしょう。もっと宣伝に活用したいと考えるようになりました。

「キャンパスの風景」

さっそく「キャンパスの風景」というコラムをつくり、毎号私の素人写真と文を掲載することになりました。加えて143号より「無垢サロン」というコーナーも設け、毎号どなたかに思うところを自由に書いていただくことにしました。無垢は、磐梯熱海温泉にある本学の保養施設「無垢苑」から採りました。

この号のお知らせに「授業料全額免除の特待生制度の創設」があります。優秀な学生支援を目的としたものですが、本学入試制度に大きなはずみとなりました。

またこの号より「奥羽大NOW」という囲み記事欄を設け、その時々話題性のある記事を掲載することにしました。興味を覚えた見出しを番号追いかけて見るとー

143号「元文学部太田教授テレビ出演」、146号「SL郡山を走る」、147号「キャンパス空中散歩」、148号「会津のこころ2題、日新館と野口英世」、149号「変ります、本学周辺、ふくしま医療機器開発センター、来春新駅郡山富田駅誕生」、150号「NHK公開復興サポートin 郡山が本学キャンパスで開催」、151号「薬用植物栽培研究で平田村と協定調印」、152号「郡山を探そう、歯学部1年「郡山学／福島学」、153号「郡山富田駅の開業」、155号「避難指示解除の町、方言で元気に、NHK「おはよう日本」で全国放送」……とりあえずこの辺まで。

141号(2014年3月)より教員の研究を紹介する「歯学部研究紹介」「薬学部研究紹介」を設け、教員個人の研究内容を紹介しておりましたが、171号より一般の方にも分かりやすい形ということで、各研究室またはグループごとの紹介と

いう形をとることになりました。

学内関係者が図書を出版した場合の情報も学報で紹介する必要があります。143号より「自著を語る」というコラム欄を設け、著者の方に紹介文を書いていただくことになりました。

「インタビュー記事」

忘れられない記事があります。急に思いついたように、影山英之理事長にインタビューをしました。本学創設のころの事情を原稿にお願いしたいというつもりでしたが、談話ということになり録音機をもって、理事長室にうかがいました。ちょうどこのとき清野和夫事務局長(当時)が理事長と話し中でしたが、中断され、即インタビューに入りました。

理事長が話された内容は学報148号(2015年12月15日発行)の「無垢サロン」に掲載しました。理事長ご自身が若いころ歯科医師に従事され、その経験が本学創設の参考になったことなど、普段うかがうことのできない話でした。タイトルは「明るい光、豊かな緑～いつも仕事は前にある」でした。

郡山駅長さんを訪問したこともありました。145号で同行者の五月女徳子さんに探報をまとめていただきました。百々(どど)潤司郡山駅長の「何度でも来たいと思う駅、ドキドキワクワク、感動感激が伝わる駅にしたい」という言葉が印象的でした。駅長さんの情熱と発想力には感服しました。

「新型コロナウイルス感染症」

新型コロナ感染症が日本に上陸したのが2020年

2月でした。当初はそのうち治まるだろうと安易に考えておりましたが、ますます加速的に広がり、パンデミックという言葉も使われるようになりました。学報165号では令和元年度の卒業式中止、2020年度入学式中止を告示、清野和夫学長のメッセージが掲載され、さらに「新型コロナウイルス感染症～本学の対応」と題する記事で学長に筆を執っていただきました。附属病院では福島県の緊急事態宣言を受け、診療制限に入り、マスク着用の掲示が出されました。初めて自動検温モニターが登場したのもコロナならではの道具でした。

新型コロナウイルス感染症の収束がみえないことから、学報166号で「特集コロナ禍を考える」を企画、学生、職員、教員のそれぞれの立場から意見を書いていただきました。166号では「新型コロナウイルス感染症～本学の対応(2)」を、167号では(3)、168号では(4)、169号では(5)、170号(2022年3月15日発行)では(6)と、収束のないコロナ対策の記録を残しました。マスクの時代はまだまだ続きそうです。

2022年4月、新学長に歯学部清浦有祐先生が就任され、マスク時代の多難な時代を迎えることになりました。

「奥羽大学報」は学内関係者、学生の保護者、本学卒業生の方々、本学に関心を寄せてくださる方々に学内の今をお届けするものです。今後ともご協力をお願いしたいと考えております。明日の力を信じております。

(安藤 勝)

人 事

<定年・再任用>

福 井 和 徳	教 授	成長発育歯学	6月3日付
	教 授	成長発育歯学	6月4日付
遠 藤 龍 弥	診療放射線技師主任	病院医療部	6月16日付
	診療放射線技師主任	病院医療部	6月17日付
伊 藤 鍛	教 授	薬 学 部	6月28日付
	教 授	薬 学 部	6月29日付

板 橋 仁	准 教 授	成長発育歯学	9月23日付
	准 教 授	成長発育歯学	9月24日付

<退職>

今 井 知 行	助 手	附 属 病 院	7月31日付
北 原 海	助 教	〃	9月30日付
村 上 雅 美	歯科衛生士	病院医療部	〃

奥羽大学報172号(通算No.297) 2022年10月31日発行
 発 行 奥 羽 大 学
 学 報 編 集 委 員 会
 委 員 長 清 浦 有 祐

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
 電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372
 ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
 メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

奥羽大学 2023年度 一般選抜 入学試験日程

〔歯学部〕

一般選抜	一期	20名	2023.1.7(土)～1.20(金)	2023.1.26(木)	2023.2.2(木)
	二期	10名	2023.1.31(火)～2.13(月)	2023.2.20(月)	2023.2.24(金)
	三期	5名	2023.2.24(金)～3.15(水)	2023.3.20(月)	2023.3.24(金)
	試験科目		●必修科目 コミュニケーション英語(Ⅰ・Ⅱ) ●選択科目 〔数学(Ⅰ・Ⅱ・A) 物理基礎・物理〕 4科目のうち 〔化学基礎・化学 生物基礎・生物〕 1科目を試験会場で選択 ※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する ●面接		
	試験会場		本学キャンパス		

〔薬学部〕

一般選抜	一期	25名	2023.1.7(土)～1.16(月)	2023.1.18(水)	2023.1.25(水)
	二期	10名	2023.1.31(火)～2.10(金)	2023.2.14(火)	2023.2.17(金)
	三期	3名	2023.2.24(金)～3.13(月)	2023.3.15(水)	2023.3.17(金)
	試験科目		●〔コミュニケーション英語(Ⅰ・Ⅱ)〕 英語、数学2教科のうち ●〔数学(Ⅰ・Ⅱ・A)〕 1科目を試験会場で選択 ●理科 〔物理基礎・物理〕 3科目のうち 〔化学基礎・化学〕 1科目を試験会場で選択 〔生物基礎・生物〕 ※英語、数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する		
	試験会場		一期・二期／郡山(本学キャンパス)・仙台(仙台ガーデンパレス) 三期／郡山(本学キャンパス)		

給付型**特待生制度**

最大**6**年間
学費
フルサポート
返納義務無し

キミのやる気と実力を存分に活かしてほしい。
医療人としての人生をここから始めよう。
人間性豊かな歯科医師、薬剤師になるために。

**歯学部**

入学金
50万円のみ

募集人員
30名

最大6年間
2,100万円免除

薬学部

入学金
20万円のみ

募集人員
30名

最大6年間
900万円免除

特待生選抜 入学試験スケジュール

学 部	入 試 区 分	募 集 人 数	出 願 期 間	試 験 日
歯学部	一 期	20 名	2023年 1 月 7 日(土) ～ 1 月20日(金)	2023年 1 月26日(木)
	二 期	5 名	1 月31日(火) ～ 2 月13日(月)	2 月20日(月)
	三 期	5 名	2 月24日(金) ～ 3 月15日(水)	3 月20日(月)
薬学部	一 期	20 名	2023年 1 月 7 日(土) ～ 1 月16日(月)	2023年 1 月20日(金)
	二 期	10 名	1 月31日(火) ～ 2 月10日(金)	2 月14日(火)

**奥羽大学****歯学部****薬学部**

TEL.024-932-9055 (歯学部)

TEL.024-932-8995 (薬学部)

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 FAX.024-933-7372 E-mail:info@ohu-u.ac.jp